

平成 28 年度 南魚沼市地域包括ケア連絡協議会 ワーキングチーム（WT）活動報告

	大和地域ワーキングチーム	六日町地域ワーキングチーム	塩沢地域ワーキングチーム
WTメンバー	萌気園浦佐診療所 うおぬま調剤グループ在宅担当薬剤師 特別養護老人ホーム八色園生活支援課 特別養護老人ホーム雪椿の里生活相談員 大和地域包括支援センター職員	河内医院 るあな訪問看護ステーション 斎藤記念病院相談員 南魚沼市社会福祉協議会居宅介護支援事業所 南魚沼市地域包括支援センター職員	ゆきあかり診療所 ゆきあかり調剤薬局 小規模多機能介護センター大空の家 居宅介護支援事業所 民生委員 筋力づくりサポーター 塩沢地域包括支援センター職員
WT会議回数	3回	3回	2回
会議内容	① 地域の医療介護等の連携において課題は何か情報共有し、ワーキングチームとして研修会等を行う上でテーマとして取り上げる内容について話し合った。 ② 南魚沼市の住民健診結果からの問題として、慢性腎臓病(CKD)の予防について市役所保健課が取り組んでいる。また、特養入所の相談において、人口透析を受けている方の入所が難しい実態を踏まえ、腎臓病をテーマに取り上げ、予防から介護までの視点で研修会を行うこととした。 ③ 研修会内容の検討や準備や当日の役割分担を行った。	① 地域の医療介護等の連携において、課題は何か情報を共有した。 ② 前回出された意見の集約から、医療や介護サービスを行う関係者と介護する側との考えや思いのずれ違いにより、本人・介護者への支援の方向がずれてしまっている状況があることを確認。そのうえで地域と多職種が連携して在宅介護を支えるために、介護者はそれぞれの介護期にはどのような気持ちになるのかを確認・理解する研修会を実施することにした。住民参加型の研修会を検討し、住民目線で研修会ができるよう内容を検討。 ③ 研修会の内容の確認や進め方、当日の役割り分担を行った。	<第1回会議> 塩沢地域の特徴として、大きな病院は存在しないが地域のつながりは強く、開業医を中心とした綿密な地域医療や、ソーシャルキャピタルと言われる、民生委員、筋力づくりサポーターの活動も活発である。医療・介護連携はこれまで取り組んできた経過があるが、地域包括ケアを実現するには、医療・介護関係者と、地域のソーシャルキャピタルが互いを知り、相互補完関係にあることを、市民にも広めていかなければならない。 「わたしたちでつくる、わがまち塩沢地域包括ケア」をテーマに、メンバーと一緒に考えていくプロセスに意味があると考え、ワーキング会議がスタートした。
研修会有無	有	有	①地域包括支援センターから情報提供
テーマ	腎臓病予防のポイントと透析患者さんの介護について	あなたとあなたの家族の在宅介護について考える ～あなたは何期？～	・データから見る国の人口問題や高齢者の暮らしなどの実態の押さえ ・当市における、健康づくりから介護予防、認知症対策を中心とした取り組みの紹介と、見えている課題について ・塩沢地域の高齢者世帯の状況や、筋力づくり教室・高齢者サロンの状況などについて
ねらい	南魚沼市に多いといわれている腎臓病について介護の問題も含め実態を知り、腎臓病の予防から介護までの視点で考える	介護者はそれぞれの介護期にどのような気持ちになるのかを確認・理解することで、本人・介護者に寄り添い、多職種が連携して在宅医介護を支えることを考える。	②意見交換 ・診療所から見ると、病院、ケアマネジャーとの連携は密にでき、介護分野とのつながりもしやすく仕事がしやすい。しかし地域が広がると距離の問題は課題になる。このような集まりは今後も大事である。 ・筋力づくり教室の多さには驚いた。サロンも多く、近所付き合いもあり、助け合いがある地域である。筋力教室はぜひ参加して体験してみたい。 ・薬局には、一人暮らし高齢者の心細さの相談などがある。合併を機に老人クラブの活動が下火になった部分もあるのでは。集まれる場所は大事なので、筋力教室やサロンなど参加をすすめてみる。 ・薬に関する講話なども、ニーズがあれば出かけていきたい。 ・介護サービス事業所の利用者も地域のサロンや教室に参加すると刺激になり、認知症理解の相互作用も生まれそう。小規模多機能介護事業所は塩沢地域には3か所あり、他地域から見ると手厚く対応できているのではないかと。医療介護連携が効率よく進むために、手軽なタブレットなどによるネットワーク構築などできるといい。 ・市の健康課題や、筋力づくり教室、サロンの状況などはまとめてあるとわかりやすく、地域の状況と照らし合わせて見えるので民生委員全体で知ってもよい。民生員自身も関心を持つべき課題である。
内容	1. 状況報告 ① 慢性腎臓病(CKD)について南魚沼市や大和地域の実態報告 南魚沼市役所保健課保健師 ② 人工透析を受けている方の介護サービスの利用状況について 特別養護老人ホーム八色園生活支援課 ③ 診療現場から見た腎機能低下の問題 萌気園浦佐診療所 2.グループに分かれて意見交換会	1. それぞれの立場からの状況報告 ① 住民の立場から ② 病院相談員の経験から 斎藤記念病院相談員 ③ ケアマネジャーの経験から 南魚沼市社会福祉協議会居宅介護支援事業所 ④ 訪問看護の経験から るあな訪問看護ステーション ⑤ 地域包括支援センターの職員の経験から 南魚沼市地域包括支援センター 2. グループに分かれて意見交換	
参加者数	67人 一般市民：10人 医療介護関係 42 行政(包括含む) 15人	56人 一般市民：7人 医療介護関係者：38人 行政(包括含む)：11人	

アンケート	<p>1.内容について役立つことはありましたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療知識知らないことを聞き良かった。高血圧糖尿病の関係性がわかった。</li> <li>・沈黙の臓器ということで早めの確認自己管理の大切さを学んだ。</li> <li>・父が腎臓が悪く食事制限について知りたかった。</li> <li>・この地域だからこそその問題点がわかった。</li> <li>・予防から医療、介護と透析治療を通して様々な立場から意見交換でき良かった。</li> </ul> <p>2.意見要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の患者さんなどの声を聴いてみたい。</li> <li>・職場や人間ドックなどを利用して予防することが大切であることをもっとPRしてほしい。</li> <li>・参加者からの問題提起がもう少しあってもよいかもしれない。</li> <li>・いろいろな病気に関する研修があれば参加したい。</li> <li>・多職種の集まる意見交流会を多く開催してほしい。情報提供から始まる連携を目指していきたい。</li> <li>・市民に基礎知識を知ってもらう機会は必要。</li> </ul>	<p>1 内容について役立つことができましたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな立場からの意見に直接触れることができ大変参考になった。</li> <li>・直接介護している人の介護の大変さを、生の声で具体的に聞いて、よかった。改めて自分だったら何ができるか、を考えた。</li> <li>・改めて何のために支援をするのか、を考えることができた。</li> <li>・看取りの話を聞きながら、最後まで生きることを楽しめる・楽しかったと息を引き取るときに思える支援をしたい。</li> <li>・介護者が見取りに向けて少しずつ受け入れていく過程で不安が軽減できるようにしていきたい。</li> <li>・専門職として考えるのではなく、自分の身内を介護する立場として何期か考えること、意見を出すことができよかったと思う。</li> <li>・いろいろな関係者とのつながりや、介護はみんなで！との思いを強く感じました。</li> <li>・知らないシステムを知ることができた。</li> <li>・多職種と顔のみえる関係ができた。</li> </ul> <p>2意見要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催時間の設定によって、参加者は大きく変わると思います。</li> <li>・介護のこと、専門職としてでなく、一人の住民として皆さんと話ができる機会は大事と思います。</li> <li>・もっと地域の一般市民の人がたくさん参加できるとよいと思います。</li> <li>・もう少し時間がほしかった</li> <li>・漠然としたイメージの「地域包括ケア」というものについて、具体的な例などを示していただきながら、聞く機会があるとよいと思いました。</li> <li>・河内先生がしっかり話せる時間をもう少し長く、診療現場の話を聞きたかった。</li> <li>・天候も悪かったので時間通りに終了したほうがよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋力づくり教室は、参加している高齢者と話す和生活や地域の状況が見える。一人暮らしで参加しなくなった人に電話で様子を聞くこともあり、参加者が少なくてもなくさないということが大事と思う。色々な方法で減らさない方がいいと思っている。</li> <li>・医療介護連携の課題は、これからは市民一人一人がどう考えるかの時代になっている。医療・介護・地域のソーシャルキャピタルが同席することでつながり、活動していけたらと思う。</li> </ul> <p>&lt;第2回会議&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括支援センターから、認知症のテーマでの事業展開を提案したが、各委員から見た課題や意見、塩沢地域の現状を十分出し合ってからでない、と、課題の共有や、チームとしての活動方針が見いだせない、という結果だった。</li> <li>・目指す方向の共有をし、実行・評価して発展させていく過程が大事であり、長期目標、短期目標などの設定も必要ではないかなどのアドバイスをいただいた。</li> </ul>
まとめ 今後の課題	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートをまとめてみると参加者からは病気の知識が得られてよかった。この地域の問題点を知ることができよかったという内容の感想があり、ねらいとするところは成果が得られた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキングチームの意見としては、住民参加がもっと多く得られるとよかったという感想があった。</li> <li>・まずは住民、多職種が一堂に集まり、医療や介護について話し合う機会を作り、なおかつ住民参加が広まるように、今後も地域づくり協議会、行政区、健康づくり推進員活動などと連携していくことが必要。</li> </ul>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が介護する立場としての気持ちについて考えることで、お互いの気持ちの共有はできた。専門職としてどう支援するのか、また住民は一人で介護するのではなく、いろんな職種が支えているところを知ることとなった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな立場の住民がもっと多く参加し、いろんな生の声を聞きながら意見交換ができるとよかった。</li> </ul>	<p>&lt;&lt;今後について&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度、ワーキングチームで取り組むべき方向と、たとえメンバーが変わっても、継続して活動し発展していけるような土台作りをめざして、メンバーに相談しながら原案を作り、次年度の活動につなげたい。</li> </ul>